

平成26年度第1回疫学研究に関する審査検討会 議事要旨

日 時：平成26年6月26日（木）10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎第7号館（西館）（金融庁）13階共用会議室（1320）

参加者（敬称略、五十音順）

検討委員：西間座長、有田委員、河原委員、新美委員、辻委員、南委員

事務局：環境保健部 塚原部長

環境リスク評価室 長坂室長、永井室長補佐、高野係長、田中係員

参 考 人：日本エヌ・ユー・エス株式会社、いであ株式会社、国立環境研究所環境健康研究センター、国立環境研究所エコチル調査コアセンター

議事内容

(1) 「ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究」

- ・日本エヌ・ユー・エス株式会社より、調査の目的、昨年度からの変更点、調査の概要について説明。
- ・倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

(2) 「化学物質の人へのばく露量モニタリング調査」

- ・いであ株式会社より調査の概要について説明。
- ・説明文書の中で、調査に要する時間についても記載することとの指摘があった。
- ・倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

(3) 「微小粒子状物質等大気汚染物質による肺機能発達への影響調査」

- ・国立環境研究所環境健康研究センターより計画変更について説明。
- ・倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

(4) 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」

- ・国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、詳細調査計画の策定とそれに伴う研究計画書の一部変更について説明。

- 採血時の疼痛緩和のために外用局所麻酔剤を使用する際には、医師が対象者の既往歴等を考慮し、十分な情報を提供した上で、使用の希望の有無を確認し、同意を得る必要があるとの指摘があった。
- 対象者への説明において、「アナフィラキシー」及び「ショック」について、対象者にわかりやすいように補足説明を加える必要があるとの指摘があった。
- 倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

以上